



専任しよう みんなの人生を豊かにするために

まるがめ

週報

 会員数 59名
欠席者

 出席者46名 欠席者11名 免除会員5名
天野・麻田・有家・和泉享・松山・中野昌・大山・加内・岸上・中川
曾川-会員

前々回出席率 82.1%(11/4)

 2021.11.18
Vol.59
№10
(2846)

MARUGAME ROTARY CLUB WEEKLY

 会長 谷本 順三
幹事 石合 由明
会報委員長 藤井 紀子

お知らせ

- 11月のプログラム
 - 4 (No.1)-地区大会報告
 - 11 (No.2)-客話
 - 18 (No.3)-クラブフォーラム
 - 25 (No.4)-客話

他RC例会変更

- ニコニコBOX;
 - よいことがありました
 - 秋山憲夫君
 - 森高委員長ありがとうございました
 - 谷本君
 - 森高会員良い話をありがとう
 - 齋賀君
 - クラブフォーラムを終えて
 - 森高君

<ニコニコ会計累積/¥175,000>

がんばるBOX;なし

<がんばる会計累積/¥55,000>

例会場・事務局

丸亀市塩飽町48-1 丸亀プラザビル5F

■会長挨拶

皆さん今日は、今日は10月21日の会長挨拶の中で、坂出バイオマス発電所の10月22日の記者発表についてお知らせしておりました。この記者発表の詳細についてお話をさせていただきます。お手元にお配りしているA4のニュースリリース資料により説明致します。

坂出バイオマス発電事業は弊社(新光電装)が5年前より開発に取り組み、系統連系、土地収用、地元調整等をイーレックス株式会社と共に進め、重要な環境アセスメントや地元関係団体等の調整を行い、この10月に新たに4社が参画となり、事業が本格的にスタートする運びとなりました。事業の概要は、資料に記載の通りで、建設予定地は坂出市林田町(約4.4万平方メートル)、出資会社は記載の6社、発電所出力は約7万5000kw、年間発電量は約5.3億kwh、使用燃料は木質ペレット(年間32万t)をベトナムより輸入、予定工期は着工が2022年11月、営業運転が2025年6月の予定です。この発電所は再生可能エネルギーを使用している固定価格買取制度を活用し、CO2排出削減効果年間24万tも見込んでおります。また、先ほどの年間発電量5.3億kwhにより一般家庭17万世帯への電力供給が可能となります。このように自然環境保全に貢献し、地域への安定した電力供給にも少なからず貢献できると思います。

年明けから建設準備に取り掛かり、弊社は建設及び、運開後の運転・メンテナンスにも役割を果たしてまいります。この5年間に間には、当クラブの方々にもお世話になり、県内外のロータリークラブの方々にもお世話になりました。これまでのご協力に感謝申し上げます。

■幹事報告

①夏見会員が正式に”ガバナーマネジメント”に承認されました

■例会事業;クラブフォーラム;ロータリー財団委員会 森高委員長
皆さんこんにちは。今年度、ロータリー財団委員長を務めます森高です。どうぞ宜しくお願いします。

<ロータリー財団について>

ロータリー財団は、皆様からの寄付を世界各地での奉仕活動に役立てています。100年以上前に創立されて以来、教育の支援や持続可能な成果を生み出すプロジェクトに、総額40億ドル以上の資金を提供してきました。寄付が世界にもたらす影響として、①60セント(1ドル→114円換算で約70円)で1人の子供をポリオから守ることが出来る②50ドル(約5,700円)で、水を介する疾病から人々を守るために安全な水を提供することが出来る③500ドル(約57,000円)で、いじめ撲滅キャンペーンを立ち上げ、子供たちに安全な環境を作ることが出来ると言ったことが挙げられます。身近なところでは、クラブ計画書の中に本年度当クラブからの支出予算が記載されています(約447,000円)。これは皆さんからの会費と寄付金で成り立っており、今年度は当クラブより谷本会長・夏見会員・秋山会員の3名の方が、千ドル寄付していただきました。この場をお借りして、ご報告させていただきます。

<アフターコロナでのマラソン大会>

近年のコロナ渦で、スポーツイベントはほとんど休止されてきましたが、最近では感染状況が改善傾向なこともあり、プロスポーツは再開されてきています。ただし、マラソン大会は数千から数万人が一度に集まり、且つとても密な状態がいくつかの局面で生まれる大会なので長らく中止されてきましたが、ようやく再開の動きが出てきました。

(裏へ続く)



身近なところでは丸亀ハーフマラソンが、様々なコロナ対策を実施したうえで来年2月に開催されます。どの様な対策が計画されているのかを紹介すると、例年土曜日に行われていた小学生駅伝は中止、ランナー受付では体調管理チェックシートの提出、大会終了後現地での記録証の発行はせずインターネットでの掲示へ変更(混雑緩和)、参加人数及び参加料の変更(参加人数:1万人→6千人、参加料:6千円→1万円 ※参加人数が減っても、トータルでの参加料は変わらない工夫がされている)などが、挙げられます。

<もう1度参加したいマラソン大会>

桃園石門ダムハーフマラソン

台湾の北西部に位置する桃園市でおこなわれるハーフマラソン大会。高松空港から桃園国際空港への直行便就航が縁で、香川県と桃園市は友好親善協定を締結し、2017年に香川県職員の有志がこのハーフマラソンに参加。翌年の2018年からは民間からの公募による香川県選手団を結成することになるのですが、この時に私は妻と2人で参加しました。翌年も募集があったので、2年連続で参加しました。ちなみに2018・2019年の優勝者は、香川県選手団の中の四国電力元陸上部の方で、優勝賞金約40万円を獲得されその方の奥様がとても喜ばれていたそうです。山あり谷ありの厳しいコースなのですが、それよりも台湾の方の熱烈な歓迎ぶりが非常に印象に残っています。大会前夜の歓迎レセプションに、友好都市である千葉県の選手3名と香川県の選手26名で参加したのですが、23時まで宴会が続くほどでした。

奈良マラソン

2010年平城遷都1300年記念事業の一環としてスタートしたマラソン大会。非常に人気のある大会なので、募集開始日の午前零時にインターネットで申し込むのですがアクセスが殺到し、なかなか繋がりません。今年も応募しようと試みたのですが、あと少しのところまで定員オーバーとなり涙をのみました(開始30分で終了)。コースも素晴らしいのですが、関連グッズも毎年デザインを変えるなど、とても凝っています。また大会のスローガンである“来ていただいたランナーに、奈良をもっと好きになってもらう、を市民が共有していることもあり、とてもランナーに優しくまた来たくなる大会です。

龍馬脱藩マラソン

高知県梶原町で開催されるマラソン大会です。梶原町は四国カルスト高原の麓にあり、四方を山に囲まれ町の面積の91パーセントが森林です。“雲の上の町”をキャッチコピーにしており、新国立競技場の建築デザインに拘わった隈研吾氏と交流があり、同氏による建造物が複数あるのが特徴です。市のホームページでも、隈研吾氏の建築を見て回るといった呼びかけもしているほどです。梶原町と隈研吾氏との知り合うきっかけは、町役場の向かいにあった古い木造の芝居小屋を保存する運動に同氏がかかわったことから、交流が始まったそうです。大会の趣旨は、龍馬たち志士の高い志を受け継ぎ、現在の苦難に直面している日本の新しい夜明けのために、己が限界に挑戦する過酷なマラソンを経て今一度、自分と向き合いそれぞれの可能性を開花し、龍馬のごとく脱藩を果たそうというものです。標高430メートルがスタート地点で、行きは全部上り帰りは全部下り、折り返し地点の最高標高は960メートル(高低差530メートル)の過酷なコースです。

以上、小さいけれどもまた行きたいマラソンコースを3つ紹介させていただきました。来年度チャンスがあればぜひ参加して、皆さんに報告できればと思っています。ありがとうございました。